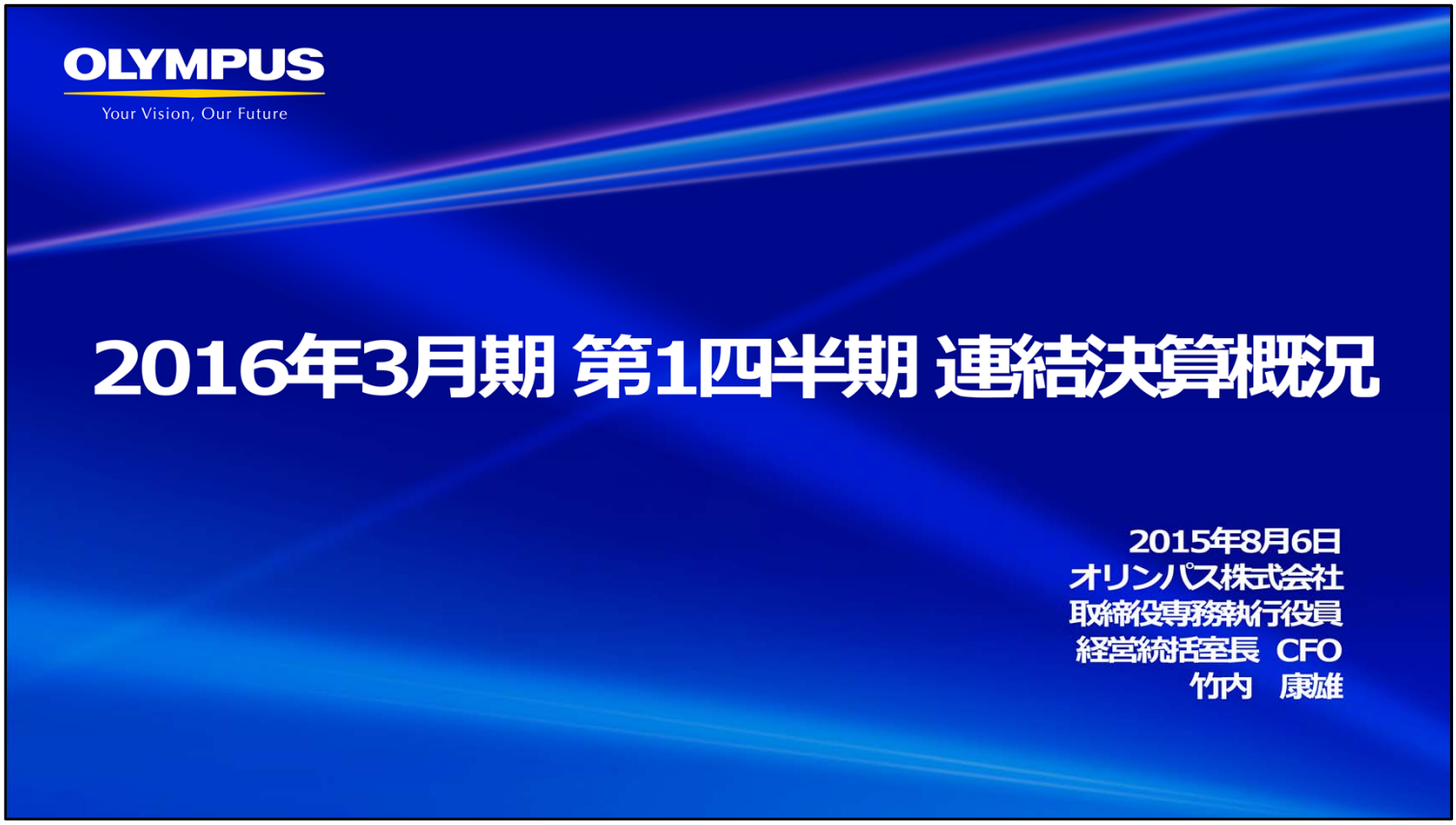


（スライド１）

オリンパスの竹内です。

ご多忙の中、オリンパス株式会社「2016年3月期第1四半期決算（発表）説明会」にお集まりいただき誠に有難うございます。

それでは早速、この第1四半期の決算概況についてご説明申し上げます。

ハイライト

連結業績

全利益項目において増益。当期純利益は前年同期比倍増

医療事業業績

過去最高の売上高、営業利益

業績見通し

連結･セグメントともに期初計画に沿った順調な進捗

 No data copy / No data transfer permitted

（スライド２）

- スライドの２ページをご覧下さい。
- 今第1四半期決算における主なポイントはこちらの3点です。
- 1点目は、営業利益以下の全ての利益項目において増益を達成したことです。特に当期純利益は大幅に増加し、前年同期比で倍増という大変好調な業績となりました。
- 2点目ですが、中心となる医療事業が第1四半期として過去最高となる売上、営業利益を計上し、こちらも引き続き大変好調な実績となりました。
- 3点目は、こうした第1四半期の状況を受け、年間見通しについても引き続き達成できると見込める点です。

2016年3月期 第1四半期
連結業績および事業概況

 No data copy / No data transfer permitted

（スライド３）

- それでは、先ず第1四半期の決算概況についてご説明申し上げます。

2016年3月期 第1四半期実績　①連結業績概況

① 売上高は前年同期比 12%増、各利益項目も着実に増益
② 当期純利益は第1四半期として過去最高益
米国海外腐敗行為防止法に関する米国司法省との協議進捗を受け、引当金を24億円計上

（単位：億円）	2015年3月期1Q	2016年3月期1Q	増減額	前年同期比
売上高	1,670	① 1,876	+206	+12%
営業利益	151	172	+21	+14%
（営業利益率）	(9.0%)	(9.2%)	(+0.2pt)	
経常利益	112	167	+55	+50%
（経常利益率）	(6.7%)	(8.9%)	(+2.2pt)	
当期純利益(※)	81	② 167	+86	+106%
（当期純利益率）	(4.9%)	(8.9%)	(+4.0pt)	
円／US$	102円	121円	19円（円安）	
円／Euro	140円	134円	6円（円高）	
売上高への影響額	-	+128億円		
営業利益への影響額	-	+30億円		

2015/8/6　No data copy / No data transfer permitted

（※）親会社株主に帰属する当期純利益　4

（スライド４）

- スライドの４ページをご覧下さい。

- こちらは、今第1四半期の連結損益の実績です。
- 売上高は、前年同期比12%増の1,876億円、営業利益は、14%増の172億円、経常利益は、50%増の167億円となりました。

- 主力の医療事業が大変好調で連結営業利益を押し上げたほか、有利子負債の圧縮を始めとして、営業外収支を改善したこと等により、各段階の利益で大幅な増益を達成することができました。

- 当期純利益は、米国海外腐敗行為防止法に関する米国司法省との協議進捗を受け、24億円の引当金を計上しましたが、順調な事業利益に加えて、繰延税金資産の加算などにより、前年同期の81億円から倍増し、第1四半期として過去最高益となる167億円となりました。

2016年3月期 第1四半期実績　②セグメント別概況

① 医療事業は売上高・営業利益が第1四半期として過去最高を更新し、全社業績を牽引
② 映像事業は増収効果と販管費改善等により四半期ベースでは4年ぶりに黒字化

（単位：億円）

		2015年3月期1Q	2016年3月期1Q	増減額	前年同期比
医療	売上高	1,209	1,394	+185	+15%
	営業利益	242	250	+8	+3%
科学	売上高	211	227	+17	+8%
	営業利益	△3	8	+10	-
映像 (※)	売上高	186	215	+30	+16%
	営業利益	△19	11	+30	-
その他 (※)	売上高	65	39	△26	△40%
	営業利益	0	△14	△14	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△70	△83	△13	-
合計	売上高	1,670	1,876	+206	+12%
	営業利益	151	172	+21	+14%

2015/8/6 No data copy / No data transfer permitted

（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

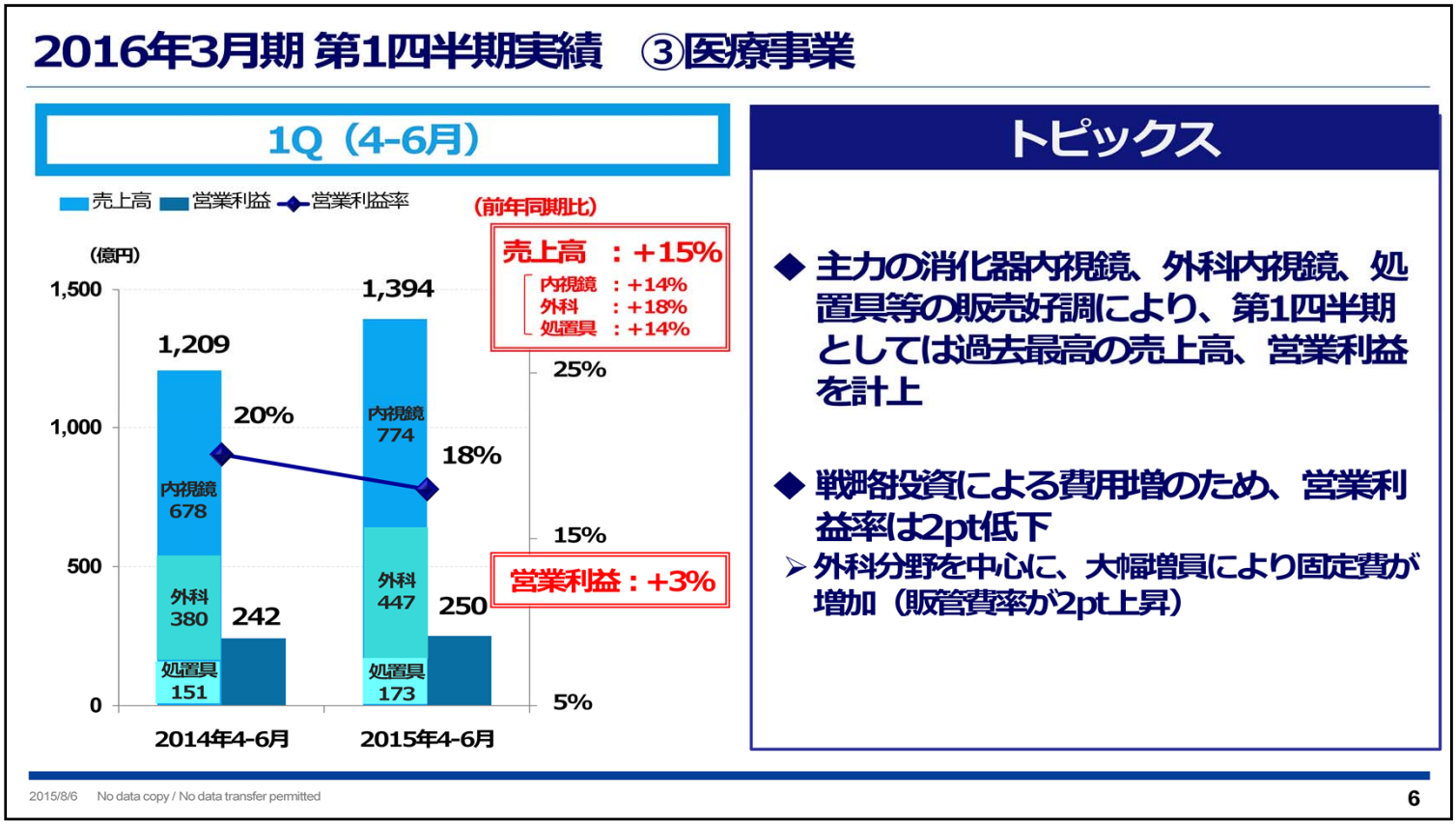
（スライド５）

- スライドの５ページをご覧下さい。
- 続きましてセグメント別の状況についてご説明申し上げます。

- ご覧の通り、過去最高の業績を計上した医療事業が全社業績を大きく牽引しています。

- また、映像事業ですが、ミラーレス販売が好調に推移したことによる増収効果に加え、映像事業に対する経営資源を限定し、成長が見込まれる他の事業等に再配分したことにより、前年同期の19億円の営業赤字から大きく改善し、四半期ベースでは約4年ぶりとなる11億円の黒字を確保しました。

- それでは、セグメント別の概況についてもう少し詳しくご説明します。

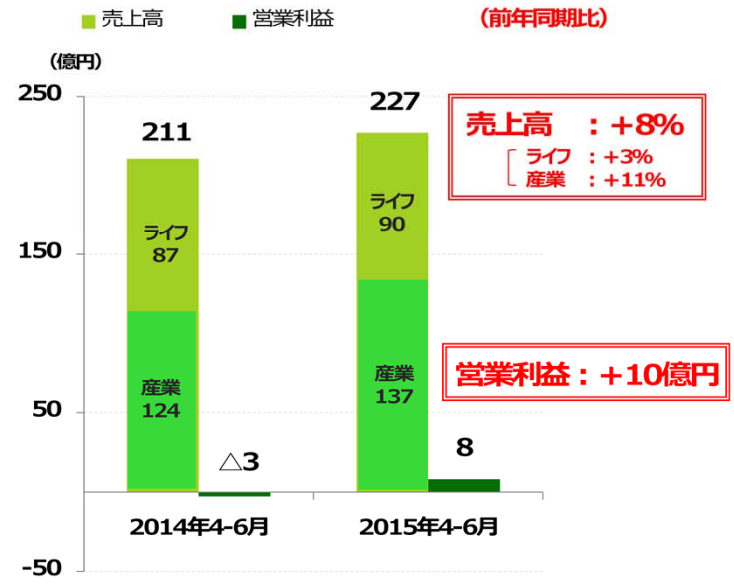


（スライド6）

- スライドの6ページをご覧下さい。
- まず、医療事業です。
- 売上高は、前年同期比15%増の1,394億円、営業利益は3%増の250億円となりました。
- 主力の消化器内視鏡ですが、国内は国公立病院を中心に各病院の予算執行が停滞傾向にあることから、前年同期比で売上高が5%減少しました。一方、北米、中国など海外では主力のエクセラスリー等の販売が好調に推移し、消化器内視鏡分野全体で14%増と2桁の増収となりました。
- 外科分野は、前期に行った海外の販売体制強化の効果が出始めており、北米、中国ではビセラエリート、欧州ではサンダービート等の販売が好調に推移し、18%の増収となりました。
- 処置具分野は、販売体制強化の成果が出ていることに加え、北米で新製品のクイック・クリップ・プロなどの販売が好調に推移し、海外を中心に14%の増収となりました。
- なお、営業利益率が前年同期比で2ポイント低下していますが、これは前期に行った戦略投資の影響で、人件費等の固定費が増加し、販管費率が2ポイント上昇したことによるものです。

2016年3月期 第1四半期実績　④科学事業

1Q（4-6月）

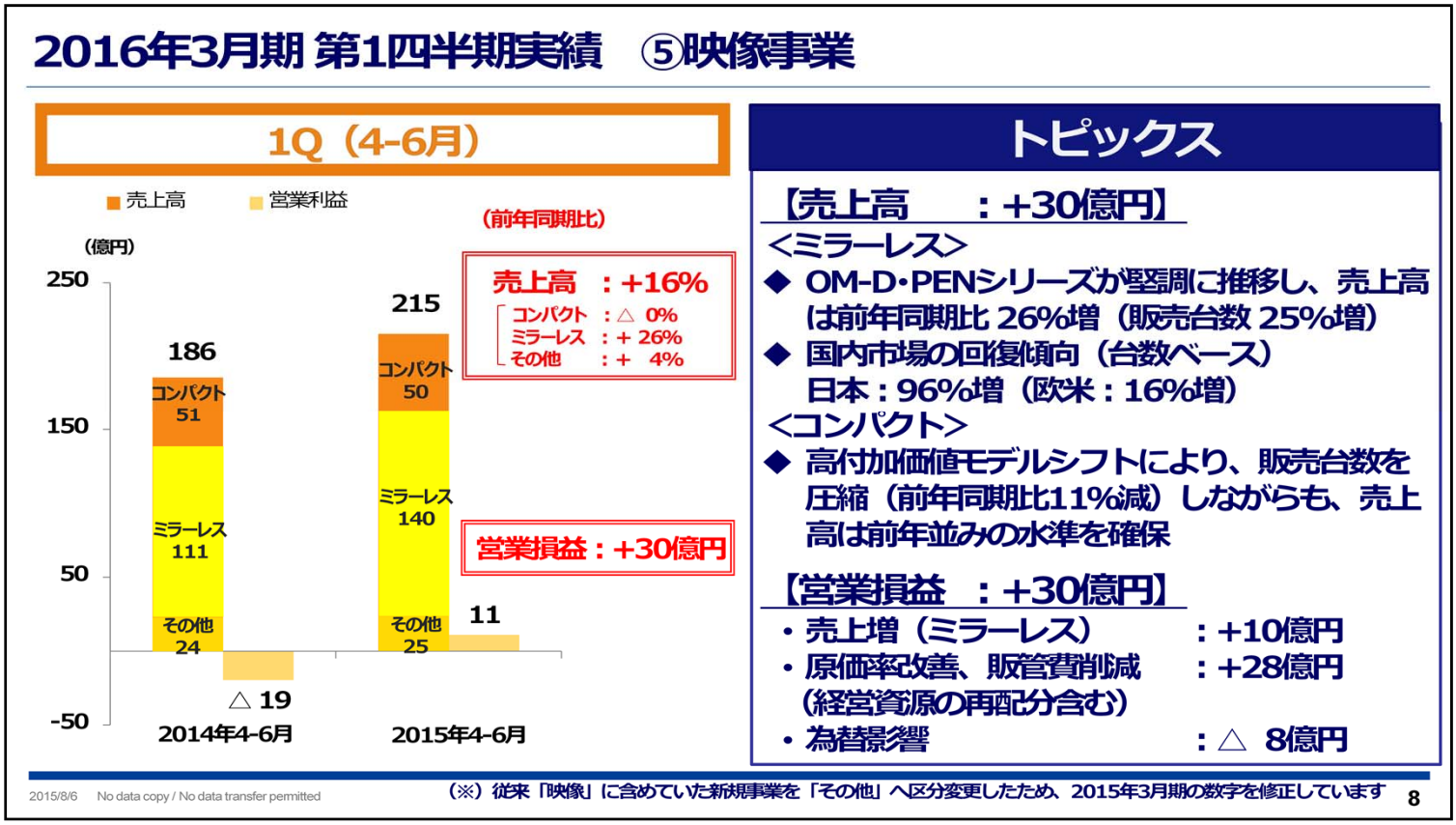


トピックス

- ◆ 産業分野では、市況が改善した国内・アジアにおいて、主に工業用顕微鏡および非破壊検査装置の販売が好調に推移し、増収増益を確保
- ◆ 継続的な原価低減によって、営業損益が改善
- ◆ 販売機能統合による効率化
  - ➢ 前期に実施した米州に続き、当期はアジア地域、欧州でセールス機能等を統合。効率的な営業活動を展開

（スライド7）

- スライドの7ページをご覧下さい。
- 科学事業です。
- 売上高は、前年同期比 8%増の227億円、営業利益は約10億円改善し、8億円の黒字となりました。
- ライフサイエンス分野では、国内で研究施設の予算執行が引き続き抑制されており前年同期並みに留まりましたが、産業分野では、国内・アジアを中心に民間の投資が回復し、主に工業用顕微鏡および非破壊検査装置の販売が好調に推移し、増収となりました。
- 営業損益は、売上の増加に加えて、継続的な原価低減活動や販売活動の効率化によって、3億円の営業損失から一転し、8億円の営業黒字となりました。
- また、昨年、米国中心に行なった顧客群戦略への変更に伴う販売機能の改革ですが、今期もアジア、欧州地域において展開し、引き続き、営業効率の向上に取り組んでまいります。



（スライド8）

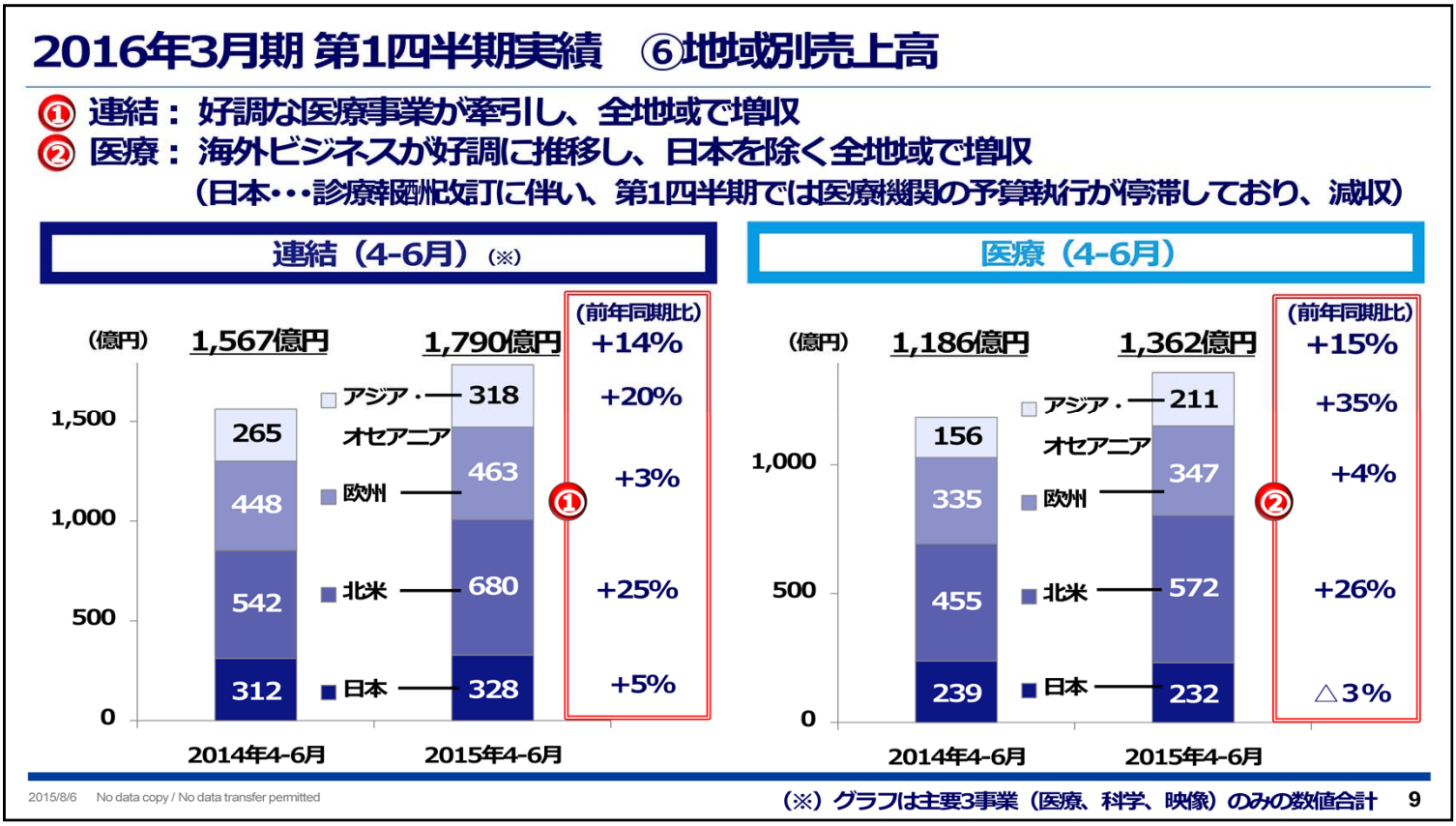
- スライドの8ページをご覧下さい。
- 映像事業です。

- 売上高は、前年同期比16%増の215億円、営業損益は11億円の黒字となりました。四半期ベースでの黒字は約4年ぶりとなります。

- ミラーレスについては、国内と欧州を中心に、OM-Dシリーズ、PENシリーズともに販売が好調に推移し、売上高は26%増の140億円、販売台数も25%増の約14万台となりました。

- 営業損益は好調なミラーレス販売による増収効果が寄与したこと、加えて、高価格帯のOM-Dシリーズの販売比率の上昇や、収益性の高い交換レンズの売上増加等による原価率の改善、

- また、経営資源の再配分や広告宣伝費等の販管費の削減により、前年同期比で＋30億円改善し、11億円の黒字となりました。



（スライド9）

- スライドの9ページをご覧下さい。
- 地域別の状況です。

- 連結ベースでは、海外においては医療事業が、国内においては科学、映像事業が好調に販売を伸ばし、全地域で増収となりました。

- 右側のグラフは医療事業ですが、日本を除く地域で増収となりました。特に中国ではビセラエリートの販売が好調だった外科および処置具の分野で50%以上の大幅増収を達成しており、アジア全体の35%増収を牽引しています。

- 同様に北米も、主力の消化器内視鏡エクセラスリーや、販売体制強化の効果が表れ始めた外科内視鏡ビセラエリートの販売が好調に推移する等、26%増と大幅な増収となりました。

連結貸借対照表（2015年6月末）

① 自己資本比率は34.6%、有利子負債は41億円圧縮
② デジカメ在庫は、2015年3月末比で 10億円減少

(単位：億円)	2015年3月末	2015年6月末	増減額		2015年3月末	2015年6月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,775 (237)	② 5,893 (227)	+118 (△10)	流動負債	3,748	3,708	△40
有形固定資産	1,501	1,593	+92	固定負債 (内：社債・長期借入金)	3,495 (2,533)	3,502 (2,543)	+7 (+11)
無形固定資産	1,806	1,799	△8	純資産	3,573	3,847	+275
投資その他資産	1,732	1,773	+40	(自己資本比率)	(32.9%)	① (34.6%)	(+1.7pt)
資産合計	10,816	11,058	+242	負債 純資産 合計	10,816	11,058	+242

① 有利子負債 ： 3,503億円（2015年3月末比 △ 41億円）
純有利子負債： 1,261億円（2015年3月末比 △ 185億円）

2015/8/6 No data copy / No data transfer permitted 10

（スライド10）

- スライドの10ページをご覧下さい。
- バランスシートの状況です。
- 内視鏡の主力製造拠点である東北地方の3工場の生産能力増強等により、有形固定資産が92億円増加しています。
- 有利子負債は期日弁済等により、2015年3月末比で41億円減の3,503億円となりました。また、当期純利益を積み上げたこと等により、自己資本比率は2015年3月末比で1.7ポイント改善し、約35%となりました。
- なお、課題のデジタルカメラの在庫ですが、生産面のコントロールや、ミラーレス販売が好調に推移したことから、2015年3月末から10億円減少し、227億円となりました。
- 今後も引き続き、厳格な生産管理と、価格対応等の販売施策によって、在庫削減に努めてまいります。

連結キャッシュフロー計算書（2015年4月-6月）

① FCF：好調な事業利益を主要因として、前年同期比1.6倍となる約200億円を確保

（単位：億円）	2015年3月期1Q	2016年3月期1Q	増減
売上高	1,670	1,876	+206
営業利益	151	172	+21
(%)	9.0%	9.2%	+0.2pt
営業CF	210	305	+95
投資CF	△83	△104	△21
財務CF	△170	△92	+78
キャッシュフロー（CF）	△43	109	+152
フリーキャッシュフロー（FCF）	127 ①	201	+73
現金及び現金同等物期末残高	2,455	2,241	△214

減価償却費	90	96	+5
のれん償却額	23	25	+2
設備投資額	94	162	+69

2015/8/6 No data copy / No data transfer permitted 11

（スライド11）

- スライドの11ページをご覧下さい。
- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、好調な医療事業から創出されるキャッシュフローに加え、売上債権の回収が進んだこと等により、前年同期のほぼ1.5倍となる305億円となりました。
- 投資キャッシュフローは、主に設備投資に関連する支出により、104億円のマイナスでした。
- 以上によりフリーキャッシュフローは、前年同期比で1.6倍の201億円のプラスとなりました。

2016年3月期 業績見通し

 No data copy / No data transfer permitted

（スライド12）

- それでは、2016年3月期通期の業績見通しについてご説明いたします。

2016年3月期 連結業績見通し

① 上期の当期純利益を上方修正、年間計画は変更なし
② 上期累計、通期ともに、増収および全利益項目で大幅な増益となる見通し

（単位：億円）	2016年3月期 上期累計	前年同期比	2016年3月期 通期	前年比
売上高	3,900	+10%	8,100	+6%
営業利益 （営業利益率）	450 (11.5%)	+17%	1,000 (12.4%)	+10%
経常利益 （経常利益率）	370 (9.5%)	+25%	860 (10.6%)	+18%
当期純利益 （当期純利益率）	280 (7.2%)	+25%	560 (6.9%)	-
円／US$	118円	15円（円安）	117円	7円（円安）
円／Euro	132円	7円（円高）	131円	8円（円高）
売上高への影響額	+218億円	－	+122億円	－
営業利益への影響額	+64億円	－	+30億円	－

2015/8/6 No data copy / No data transfer permitted

（スライド13）

- スライドの13ページをご覧下さい。

- 第1四半期の当期純利益の進捗を受け、上期の当期純利益を40億円上方修正しますが、通期計画に変更はございません。

- 通期の売上高は、前年同期比6%増の8,100億円、営業利益は10%増の1,000億円、経常利益は18%増の860億円、当期純利益は前年の純損失から大幅に改善し、過去最高の560億円となる見通しです。

2016年3月期　セグメント別業績見通し

① 医療事業が全社業績（増益）を牽引
② 主力3事業、すべてが増益

（単位：億円）

		2016年3月期 上期累計	前年同期比	2016年3月期 通期	前年比
医療	売上高	2,980	+16%	6,150	+10%
	営業利益	650	+19%	1,370	+10%
科学	売上高	500	+7%	1,100	+6%
	営業利益	20	+60%	80	+17%
映像（※）	売上高	350	△7%	700	△ 12%
	営業利益	0	-	0	–%
その他（※）	売上高	70	△49%	150	△ 35%
	営業利益	△65	-	△ 120	–%
全社・消去	売上高	-	-	–	–%
	営業利益	△155	-	△ 330	–%
連結合計	売上高	3,900	+10%	8,100	+6%
	営業利益	450	+17%	1,000	+10%

（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

2015/8/6 No data copy / No data transfer permitted

（スライド14）

- スライドの14ページをご覧下さい。
- セグメント別の見通しはこちらの通りです。
- セグメントは5月の公表値から変更はございません。
- 医療事業が売上高、営業利益ともに大きく成長し、全社業績を牽引する見通しです。
- 科学事業、映像事業も増益を確保できる見通しであり、主力3事業の全てで増益となる見通しです。

OLYMPUS

- 最後になりましたが、この第1四半期は、医療事業を始め、主力の3事業を中心に好調なスタートを切ることが出来ました。

- 引き続き、今期の取り組みを確実に実行し、上期、通期の業績見通しを確実に達成することで、次年度よりスタートする新中期経営計画にしっかりと繋げてまいりたいと思います。

- ご清聴有難うございました。

- 私からは以上です。

参考資料

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】コーポレートガバナンスコード対応について

2015年6月26日

- **コーポレートガバナンスポリシー　：制定、公表**
  http://www.olympus.co.jp/jp/common/pdf/basic_policy_on_corporate_governance_2015.pdf
- **コーポレートガバナンス報告書　：提出**
  http://www.olympus.co.jp/jp/common/pdf/report_of_corporate_governance_2015.pdf

2015年8月6日

- **当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要　：公表**
  http://www.olympus.co.jp/jp/common/pdf/effectiveness_of_board_of_directors_2015.pdf

No data copy / No data transfer permitted

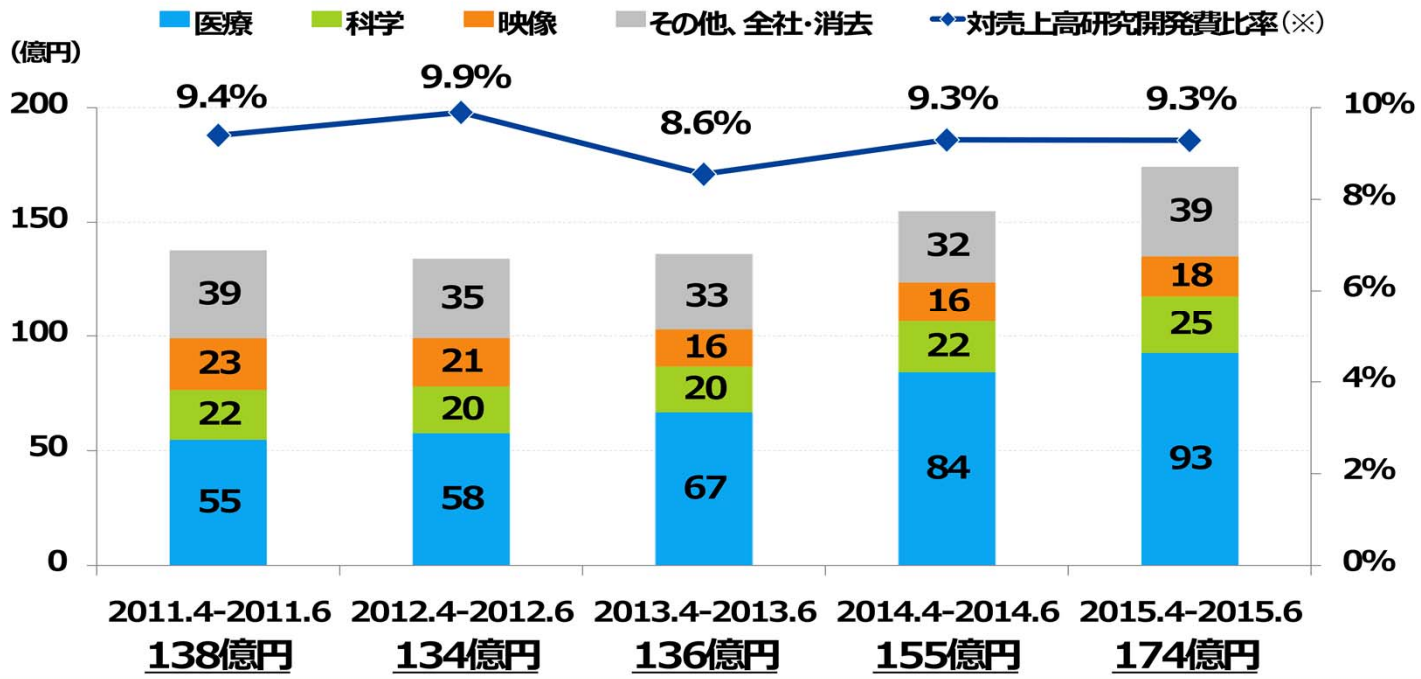
【参考資料】 映像事業 1Q（4-6月）前年同期比・差異 詳細

（億円）	2015年3月期 1Q（4-6月）	2016年3月期 1Q（4-6月）	増減
売上高	186	215	+30
ミラーレス一眼	111	140	+29
コンパクトカメラ	51	50	△0
その他 （※）	24	25	+1
売上総利益	87	100	+14
販管費	106	89	△17
営業損益	△19	11	+30

（※）従来「映像事業」の「その他」に含めていた新規事業を「その他事業」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

No data copy / No data transfer permitted

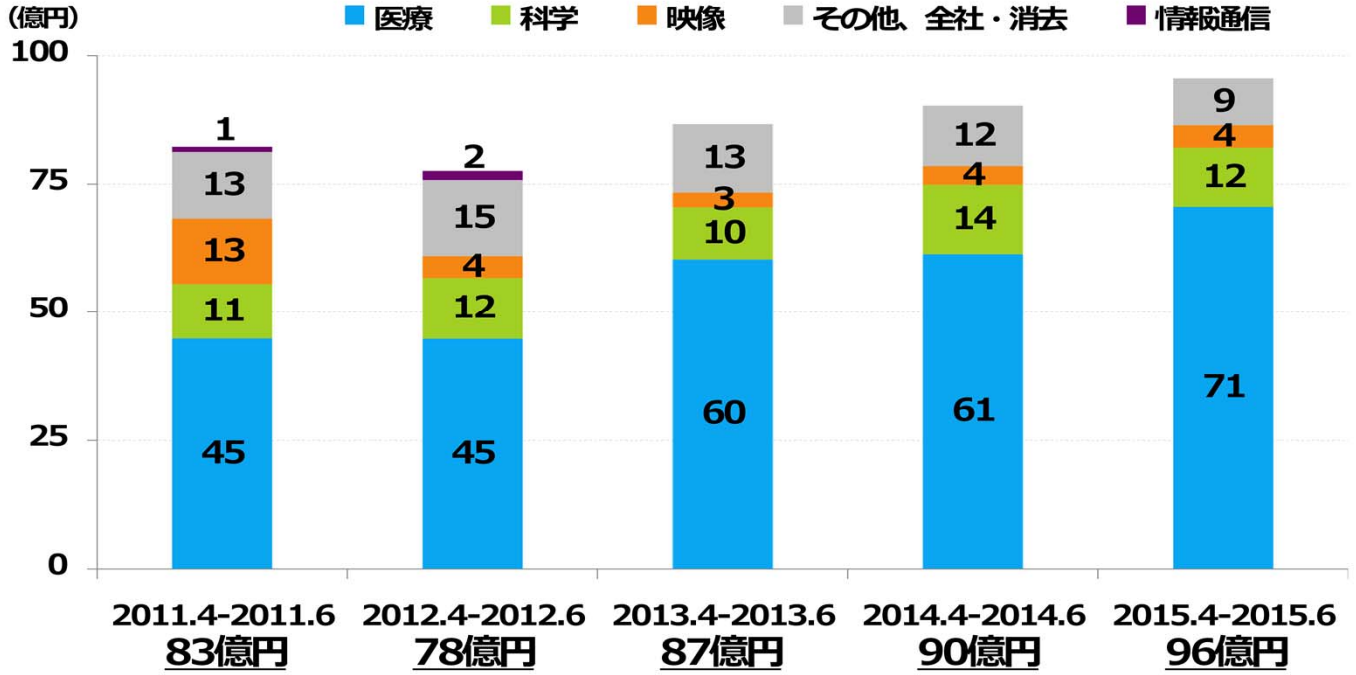
【参考資料】研究開発費



 No data copy / No data transfer permitted

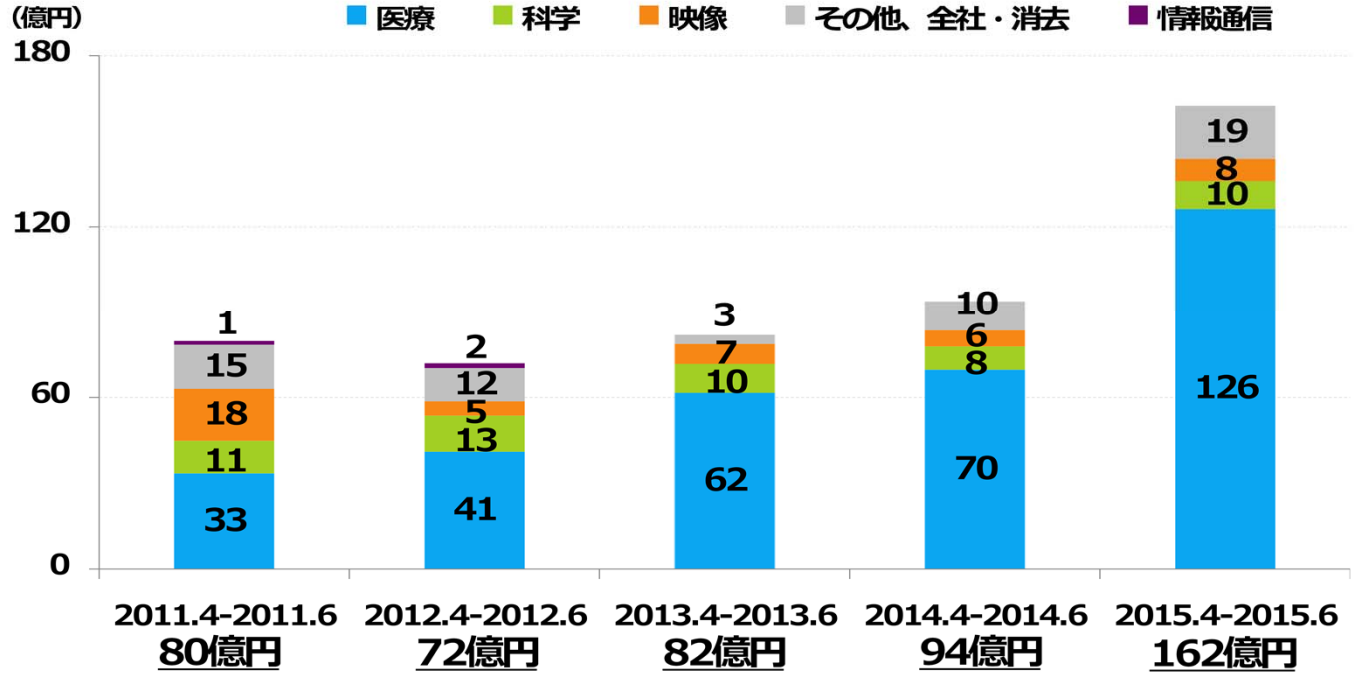
(※) 情報通信事業の売上高を除いた数値

【参考資料】減価償却費



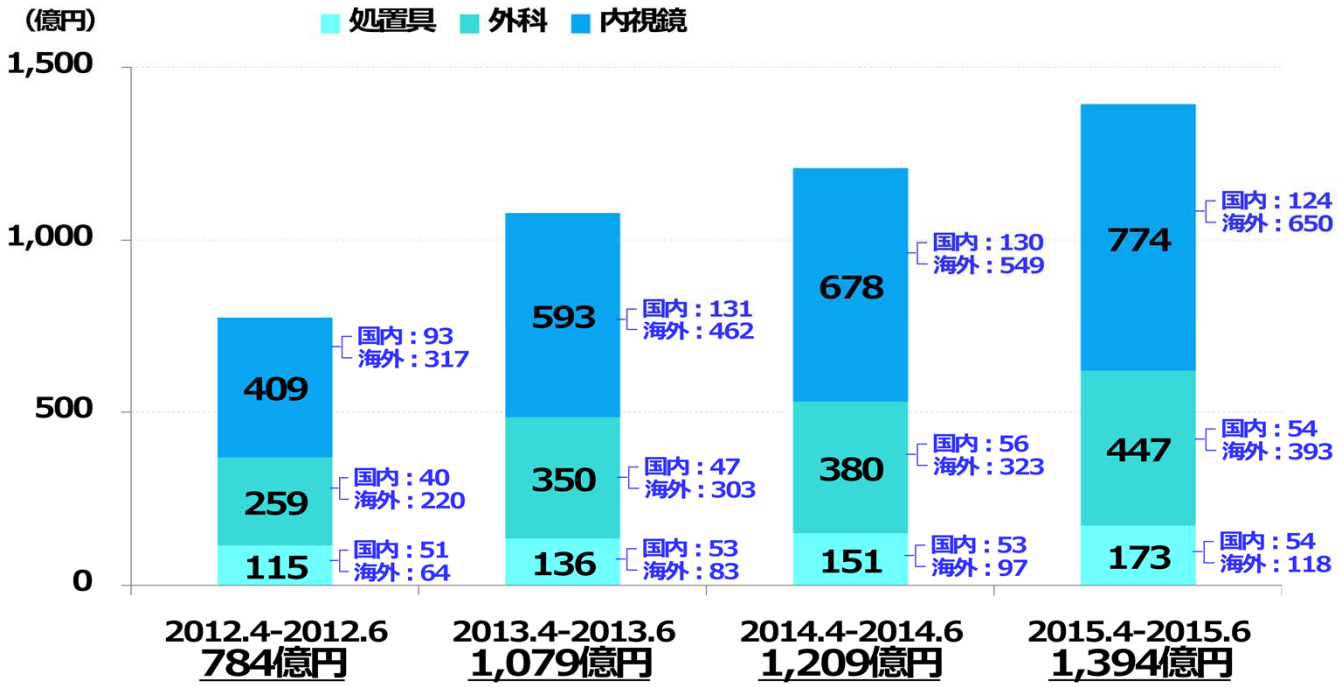
 No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】設備投資



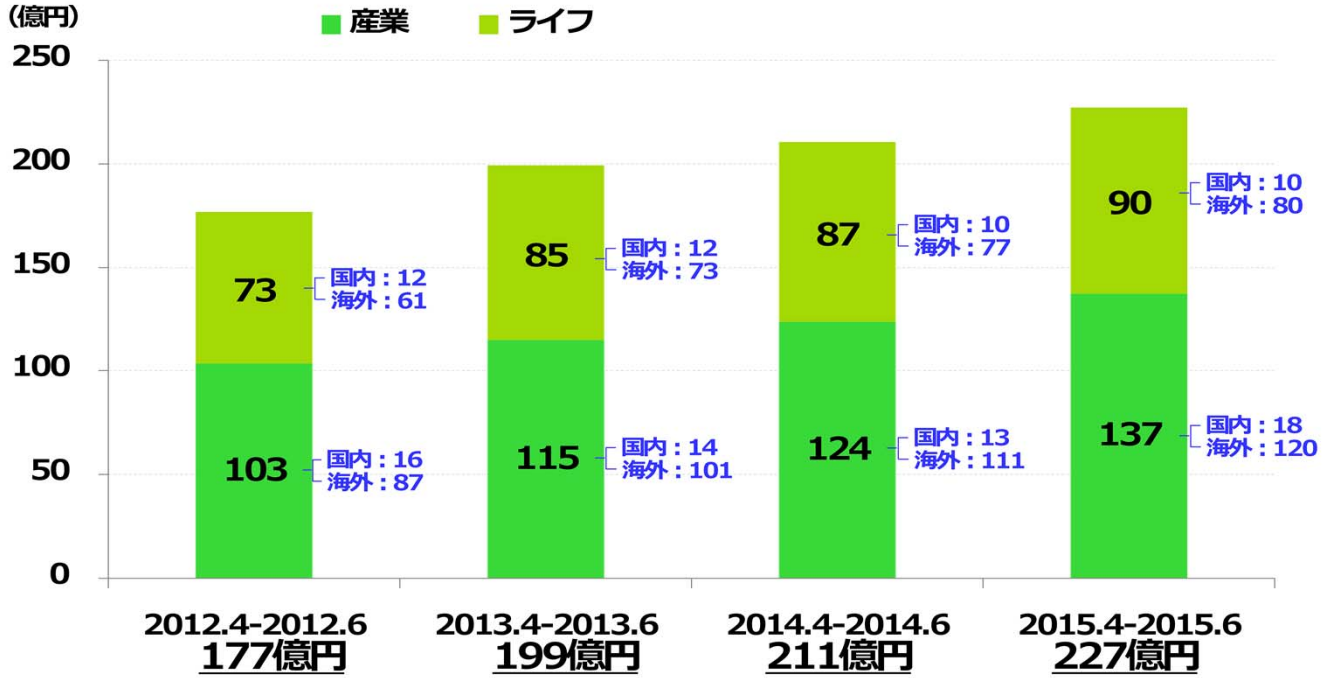
 No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】分野別売上高　（医療）



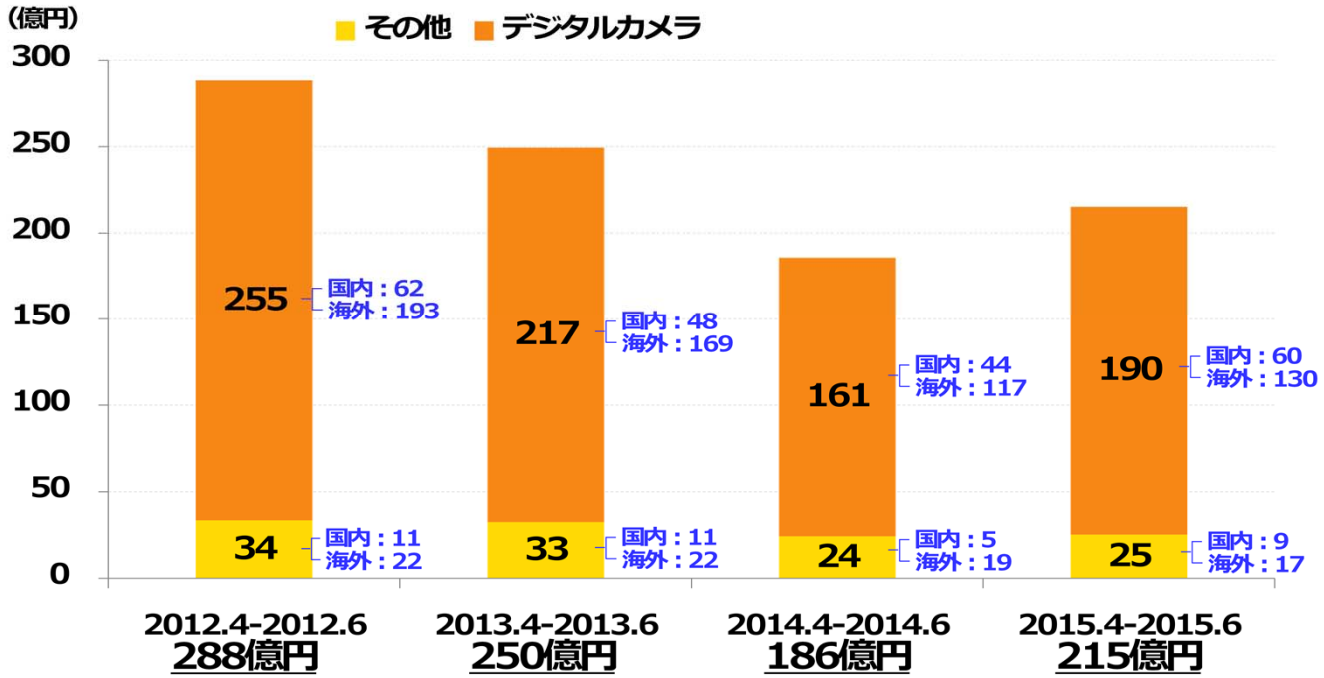
No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】分野別売上高　（科学）



No data copy / No data transfer permitted

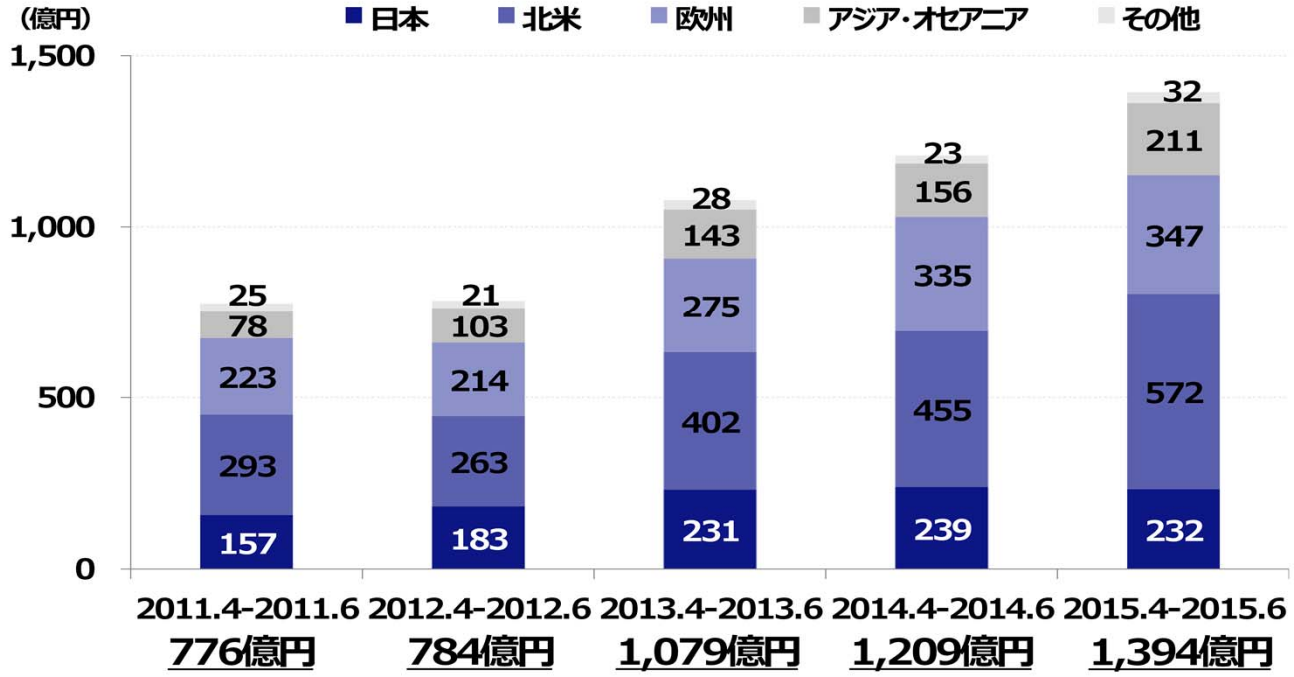
【参考資料】分野別売上高　（映像）



（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

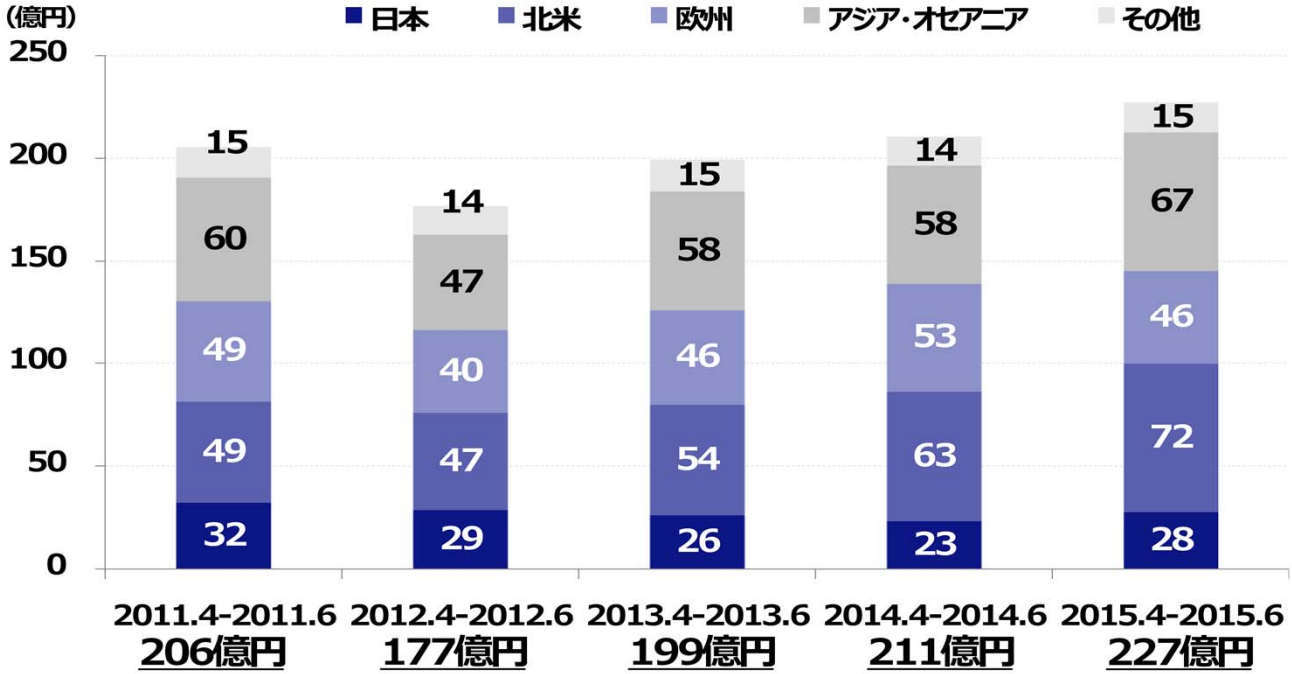
No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】地域別売上高　（医療）



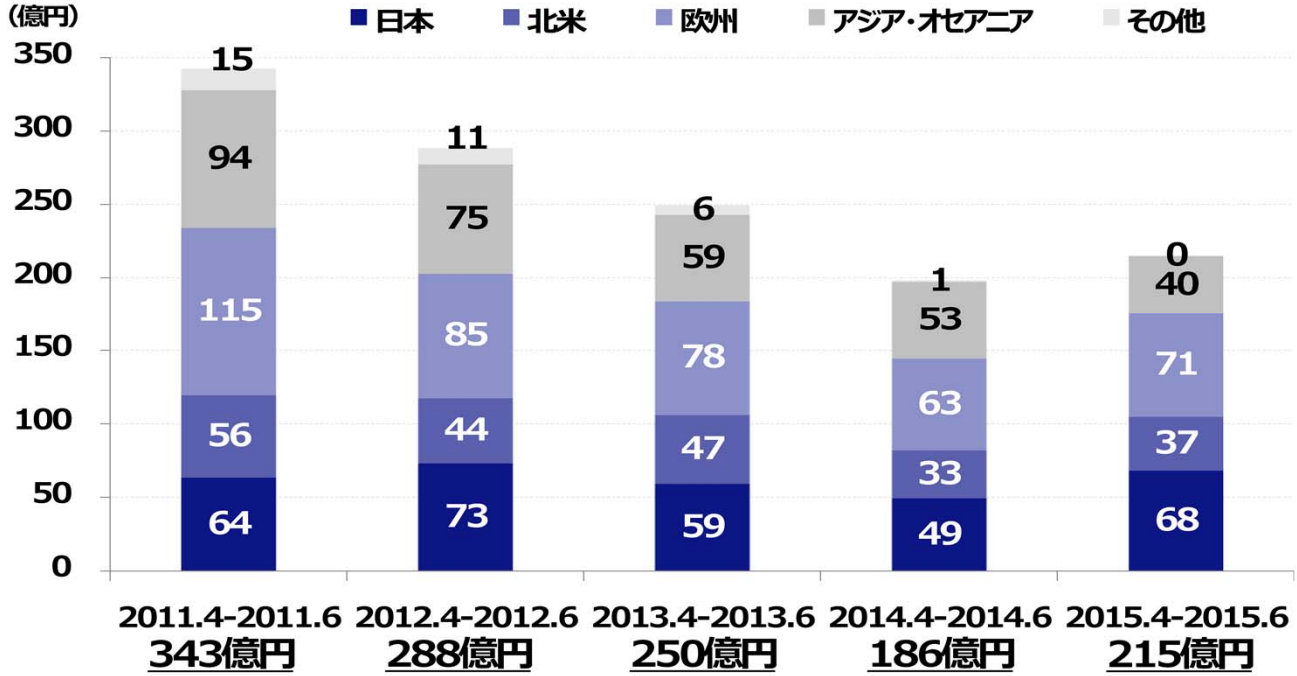
No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】地域別売上高　（科学）



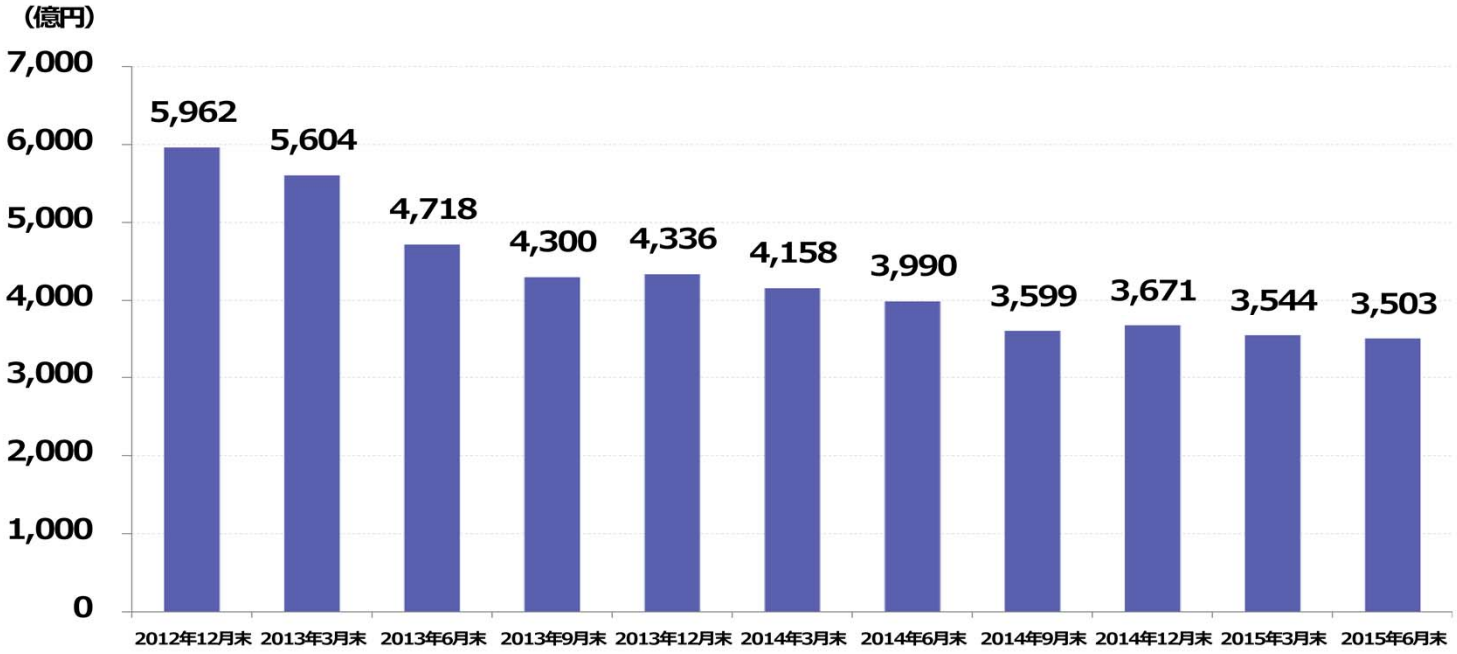
No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】地域別売上高　（映像）



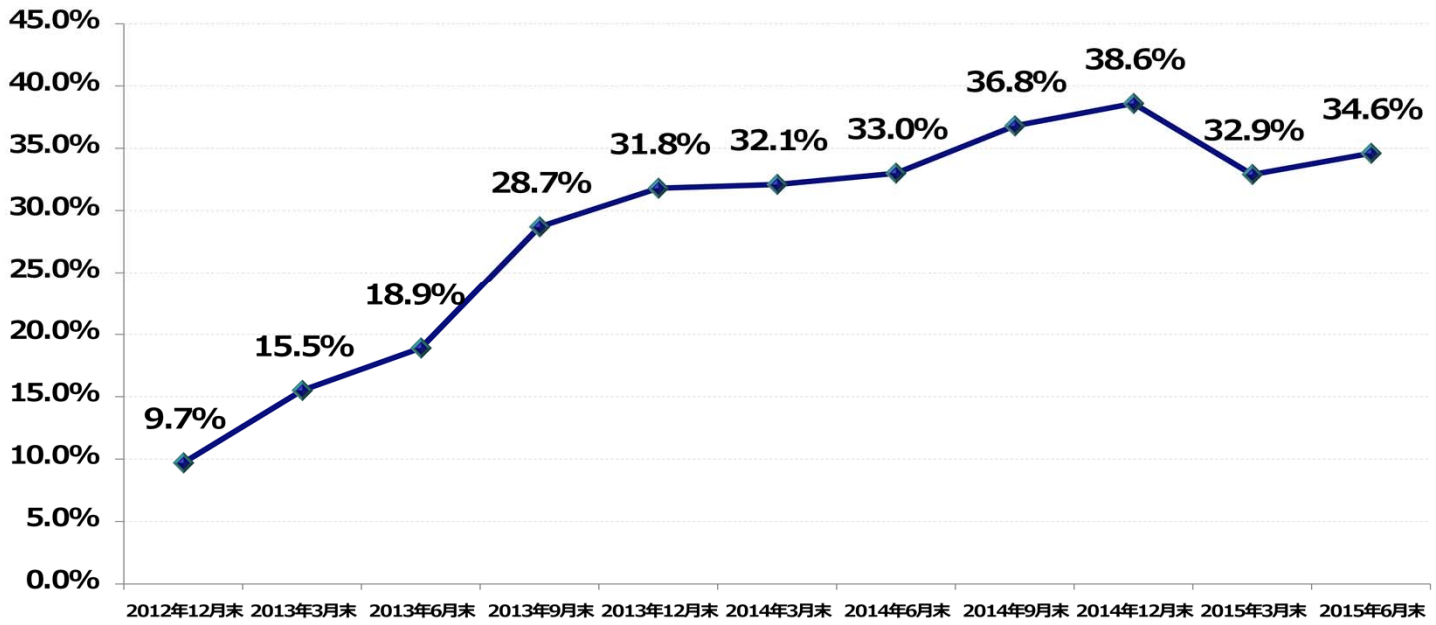
No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】有利子負債



 No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】自己資本比率



 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。